

## 2023年度「光華EDUALプログラム（リテラシーレベル）」

### 自己点検・評価報告書

2024年 3月 21日

京都光華女子大学 自己点検評価委員会

#### 1. 点検・評価の実施と結果

本学「光華EDUALプログラム（リテラシーレベル）」は、2021年度の実施内容を文部科学省に申請し、2022年度に「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」として認定を受けた。2023年度の実施状況およびプログラムの達成・進捗状況の点検・評価を行ない、リテラシーレベルのデータサイエンス教育を概ね適切に実施していることを確認した。詳細は以下のとおりである。

なお、2023年度入学生からのカリキュラム改編に伴い、下記の通り科目名称を変更し、「データサイエンス入門」を卒業必修とした。本プログラムにおける位置付けは従来通りである。

情報リテラシー基礎（2022年度まで）⇒ 情報リテラシー（2023年度以降）

情報リテラシー応用（2022年度まで）⇒ データサイエンス入門（2023年度以降）

#### 2. 数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）を構成する科目と修了要件、および履修状況

##### (1) プログラムを構成する科目と2023年度の履修状況

本プログラムは、4つの必修科目と3つの選択科目により構成され、必修4科目を全て修得することを修了要件としている。3つの選択科目は、学生の興味関心の幅を拡げ、応用レベルへの足がかりともなるように設定している。履修を推奨するがプログラム修了要件には加えてない。

「データサイエンス入門」において、社会におけるデータ・AI利活用の必要性を概観し、データと情報を適切に扱うための基礎知識とスキルを学ぶ。また、「京都光華の学び」「アカデミックスキル入門」「アカデミックライティング」において、AIの歴史や概要、データ・AI利活用の最新動向や留意事項、情報モラル等をそれぞれの科目の目的に沿った形で扱い、AI社会を俯瞰的に捉える態度を養う。

2023年度の履修状況は表1の通りであった。プログラム必修4科目は、原則、1年次に全員が履修している。

表1 各科目の履修者数と単位修得率

区分	科目名	単位数	配当年次 ／開講期間	履修者数 (学年毎、総数)				単位 取得 率
				1	2	3・4	合計	
必修	データサイエンス入門 (情報リテラシー応用)	1	1／後期	365	9	6	380	90%
	京都光華の学び	1	1／前期	366	24	15	408	86%
	アカデミックスキル入門	1	1／前期	366	10	12	391	95%
	アカデミックライティング	1	1／後期	361	14	9	384	89%
選択	情報リテラシー	1	1／前期	336	7	2	345	83%
	プログラミング入門	2	1・2／後期	54	13	6	73	95%
	くらしのなかの統計学	2	1・2／後期	58	14	5	77	69%

※2024年3月の在籍者に基づく

(2) 文部科学省の5つの審査項目との対応

本プログラムは、次のように文部科学省のリテラシーレベルにおける5つの審査項目を扱っている。

- ① 「現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む科目

科目	区分	1-1 社会で起きている変化	1-6 データ・AI利活用の最新動向
データサイエンス入門	必修	○	○
京都光華の学び	必修	○	○
アカデミックライティング	必修	○	○
情報リテラシー	選択	○	

- ② 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む科目

科目	区分	1-2 社会で活用されているデータ	1-3 データ・AIの活用領域
データサイエンス入門	必修	○	○
京都光華の学び	必修		○
アカデミックライティング	必修		○
くらしのなかの統計学	選択	○	○

- ③ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む科目

科目	区分	1-4 データ・AI 利活用のための技術	1-5 データ・AI 利活用の現場
データサイエンス入門	必修	○	○
京都光華の学び	必修		○
アカデミックライティング	必修	○	
くらしのなかの統計学	選択	○	○

- ④ 「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI 社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む科目

科目	区分	3-1 データ・AI 利活用における留意事項	3-2 データを守る上での留意事項
データサイエンス入門	必修	○	○
京都光華の学び	必修	○	
アカデミックスキル入門	必修		○
くらしのなかの統計学	選択	○	
情報リテラシー	選択		○

- ⑤ 「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AI の基本的な活用法に関するもの」の内容を含む科目

科目	区分	2-1 データを読む	2-2 データを説明する	2-3 データを扱う
データサイエンス入門	必修	○	○	○
京都光華の学び	必修	○		
アカデミックスキル入門	必修	○		
くらしのなかの統計学	選択	○	○	○

- ⑥ 「オプション」の内容を含む科目

科目	区分	選択項目
プログラミング入門	選択	4-2 アルゴリズム基礎、4-3 データ構造とプログラミング基礎

くらしのなかの統計学	選択	4-1 統計および数理基礎、4-7 データハンドリング、4-8 データ活用実践（教師あり学習）、4-9 データ活用実践（教師なし学習）
------------	----	---

### 3. プログラムの履修・修得状況

2023年度末の時点での修了状況は、2021年度入学生は92%（379/411）、2022年度入学生は83%（313/375）、2023年度入学生84%（307/366）であった。

### 4. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本プログラムの必修4科目を1年次に全て履修する学生の割合は、2021年度98%、2022年度93%であったが、2023年度入学生からプログラム必修4科目を全て卒業必修としたため、これら4科目を全て履修した学生の比率（履修率）は99.7%（365/366）となった。

1年次終了時点でのプログラム修了率は、84%とこれまでと当程度であった（2021年度93%、2022年度78%）。なお、新たに必修化した「データサイエンス入門」単位修得率は90%と昨年度「情報リテラシー応用」の83%より改善しており、他の必修科目と当程度であった。

今後は、学習ステーションとの連携により、より一層の学習サポート体制を整えるとともに、2年次以降での再履修環境を整える予定である。

以上